

令和元年度 政策提言書

袋井をもっと元気に
若者よ集まれ！！

袋井商工会議所青年部 令和元年度政策提言書

目 次

ご挨拶	．．．．．	1
袋井商工会議所青年部のご紹介	．．．．．	2
1 袋井市の現状と課題	．．．．．	3
2 対処すべき課題		
課題1 地元企業のPR不足	．．．．．	5
課題2 次の時代を担う人づくりへの関わり	．．．．．	6

3 政策提言

提言1 ヒトやしごとに関する情報の発信力の強化と共有化

(1) 「ふくろい仕事図鑑」の創刊	．．．．．	7
(2) 県・市施策の積極的な活用	．．．．．	8

提言2 デジタル（ICT）の積極的な活用でわかりやすく伝える

(1) VR動画で職業体験	．．．．．	9
(2) 各社ホームページの充実	．．．．．	10

4 参考資料

(1) 提言1 関連資料	．．．．．	11
(2) 提言2 関連資料	．．．．．	17
あとがき	．．．．．	19
主な活動実績	．．．．．	20
議事録一覧	．．．．．	21
政策提言メンバー	．．．．．	25

政策提言書ご挨拶

袋井商工会議所青年部
会 長 西 山 智

袋井商工会議所青年部（通称：袋井Y E G）は、袋井市内で活躍する45歳以下の若手経営者、後継者、中間管理職が集まる青年経済団体です。1993（平成5）年の発足以来、袋井市を中心とした地域社会の発展と経済振興に寄与するべく、自己研鑽や会員間の交流に努めて参りました。

新元号の元年となる本年度は「Y E G Classic ～伝統を胸に 駆け抜ける新時代～」をスローガンに、「地元ファースト」「Y E Gとしての本分」「先輩方が積み上げてきたもの」に今一度立ち返り、その上でこれからの新時代に臨もうという方針の下、活動をしております。

その一環としまして、袋井Y E Gの創立初年度に実施した政策提言をヒントに立ち上げましたのが今回の事業です。

商工会議所は、実業家の意見を集約し、それを世論として行政に反映していくことを目的に設立されたものであり、政策提言は商工会議所の主要な事業の一つとなっています。商工会議所活動の一翼を担う青年部として、地域の経済的発展の支えとなり、豊かで住みよい郷土づくりに貢献するというY E Gの本分を果たすべく、袋井Y E Gにおいても政策提言委員会を設置いたしました。

当委員会では、地域の問題や課題を「自分ごと」と捉え、それらを解決するためのアイデアを「要望」ではなく「提言」することにより、より活力ある地域と経済社会の実現に向け、行政や市民の皆様とともに活動をしていければと考えております。

末筆になりますが、今回の政策提言書を提出するにあたり、これまでご指導・ご協力を賜りました各方面ご関係者の皆様に御礼を申し上げますとともに、本提言書が我がまち袋井市の発展の一助になりますことを祈念致しまして巻頭のご挨拶とさせていただきます。

「Y E G」（若き企業家集団）とは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったもので、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野）を持った経営者＝Youth, Energy, Generalistを表している。

袋井商工会議所青年部のご紹介

設 立	1993（平成5）年4月1日
会員数	90名（令和2年1月現在）
定例会	毎月一回開催（原則として木曜夜）
役員会	毎月一回開催（第一木曜日夜）

商工会議所活動

- 建議・意見活動
- まちづくり事業実施活動
- 地域企業振興活動

綱領

商工会議所青年部は
地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い
次代への先導者としての責任を自覚し
地域の経済的発展の支えとなり
新しい文化的創造をもって
豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

指針

われわれ青年部は
一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
一、国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう
一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫 勇気と情熱を傾けよう
一、文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって歩を進めよう
一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ 力を合わせ 国の礎となろう

令和元年度 袋井商工会議所青年部 スローガン

Y E G Classic ～伝統を胸に 駆け抜ける新時代～

1 袋井市の現状と課題

静岡県袋井市は、88,395人(平成31年4月現在)の人口を抱える地方都市として発展をしております。全国的に人口が減少する中、袋井市は微増ながら人口が増加し

<図表1>人口増加率も静岡県内において第2位の高水準になっています。また、高齢化率は23.6%と県内でも低く、袋井市は全体的に非常に若いまちであることが分かります。一方で、地域企業の状況を俯瞰してみると、地域の中小企業は「人手不足」を感じていることがわかりました。原因としては、以下の3点が考えられます。

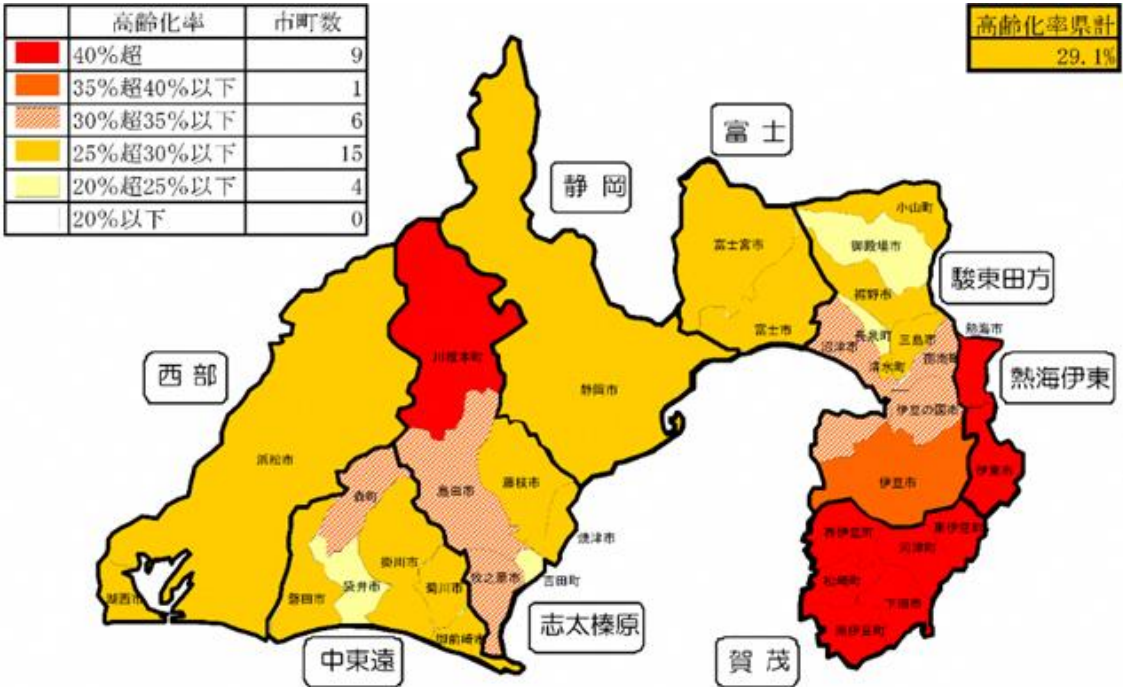
- ① 雇用主と雇用者との「ミスマッチ」
- ② 同じ会社で働き続けるのではなく、他に移ってしまう「定着率の低下」
- ③ 高齢に伴う「退職者の増大」

今回の提言では、「若手の雇用促進、定着率」に焦点を絞り、そこから様々な意見を交換し現実的かつ有効な方策について検討しました。会員各社が取り組むにあたっては、仲間との対話を通じて「自分ごと」として捉え、以下の3つの視点で考えることが大切だと考えます。

- ① 自社で行うこと
- ② 商工会議所青年部として行うこと
- ③ 行政と協働して地域全体として行うこと

これらの視点を踏まえ、自分達のまちの活性化や地域企業の発展のため、課題解決に向け行政や会員企業の皆さんに提言します。

<図表 1>



人口増加人数・・・・・・静岡県内第1位
人口増加率・・・・・・静岡県内第2位
高齢化率23.6%・・・・・・静岡県内で最も若いまち

増加人数（人）			増加率（％）	
1	袋井市	1,026	1	長泉町 1.4
2	長泉町	600	2	袋井市 1.2
3	菊川市	555	3	菊川市 1.2
4	掛川市	473	4	掛川市 0.4
5	清水町	10	5	清水町 0.0
減少人数（人）			減少率（％）	
1	静岡市	-12,795	1	南伊豆町 -12.9
2	浜松市	-6,337	2	川根本町 -10.6
3	沼津市	-6,026	3	松崎町 -8.5
4	富士市	-3,371	4	下田市 -7.7
5	伊東市	-2,638	5	東伊豆町 -6.9

出典：袋井市役所

2 対処すべき課題

■課題1 地元企業のPR不足

袋井市にある静岡理工科大学の卒業生は、県内よりも県外に就職をしています。「学生が就職活動を行う上で何を基準に企業を選んでいるのか」は、優秀な人材を各社が確保するうえで重要な視点です。起業精神、福利厚生、休暇、賃金等々、学生が重視する点が多様化していると考えられる一方で、地元企業の魅力を知る術や、企業と学生が直接関わる機会が少なく、お互いに十分な理解がなされていない状況にあります。

袋井市には、市内だけではなく国内外をフィールドに活躍している企業が多数存在しています。その様な素晴らしい企業の存在を知らないまま就職活動をしている学生が多いことは、若者の活躍機会の選択肢を狭めていることに加え、地元企業の継続的な成長にも機会損失が生じている状況であり、地元企業の魅力を知る機会の創出は、学生と企業の双方にとって極めて重要であり、当地域の発展に向け早急に取り組むべき課題です。

■課題2 次の時代を担う人づくりへの関わり

政策提言に関する定例会や会議を重ねてみると、若年層の「人づくり」を行うことほど難しいことはないとの意見が見受けられました。小学生は、この地域の自然や遺産、文化を知り、郷土愛を育み将来の大きな夢を持つ時期です。中学生は、出前授業、未来授業等から臆げに自分の将来の方向性を考える時期です。更に高校生、大学生になるとより具体的かつ現実的なものとして就職を考える時期に入ります。

早い段階から地域志向の人材育成を行う上で、学生が「まちづくりに対して発言する場」、例えば地元の袋井高校の学生と袋井商業の学生が互いにまちづくりに関して議論する機会など、自分ごととして考えるきっかけづくりが大切だと考えます。自分が暮らすまちに関して好奇心旺盛な若者がこの地に沢山いることは、袋井の将来を明るくし、次の時代を担う貴重な人材として活躍することが期待できるため、我々若手経営者や地元企業もこうした地域志向の人材育成に協力・参画していくことが重要だと考えます。

また、自動運転に代表される様に自動車関係の製造業等においても、今までのビジネスモデルが全く通用しない時代になっており、高度なIT技術や技能が求められ、今まで以上に高度な教育や育成が必要になっています。優秀な学生がこの地で力を発揮でき素晴らしい人材を活かせる環境づくりには、私達経営者の姿勢や対応力が問われます。新しい技術のチカラを組み入れた魅力ある仕事づくりとそれを担う人づくりにいち早く着手することが求められています。

3 政策提言

整理した課題に対して、我々が行政と協働で行いたい内容を提言としてまとめます。

■提言1 ヒトやしごとに関する情報の発信力の強化と共有化

(1) 「ふくろい仕事図鑑」の創刊

袋井の隠された魅力ある人や企業を広く伝えるには、特にこれから就職を控える若者に向け、実際に働いている人の生の声をまとめ、今一度働くことの意義や意味を伝える本や冊子を発行することが有効だと考えます。そのため、行政の協力を得ながら、企業の魅力を伝える方法や、企業と学生のコミュニケーション方法の具体化を検討し、実現に向けて取り組むことが必要です。

学生の就職活動には時間的な制約のある中で、表面上の資料やデータとは違った角度から地元企業やそこで働く人の魅力を伝えるアイテムを作成しPRすることで、学生と地元企業の出会いを創出できるのではないのでしょうか。



出典：はままつ仕事図鑑 (株)55634

<袋井市にある魅力的な企業の紹介本>

地元企業の魅力を伝え、お互いを知る機会の必要性を強く訴える

- ・企業理念、経営者の志、人間味、学生へのメッセージを物語で紹介
- ・経営者の自己評価表も記載し、企業の強みや成長具合が一目で分かる
- ・本＋QRコード（動画）で1日の仕事の流れをイメージ
- ・YEGの会員企業が紹介する「公認本」だから安心
- ・袋井商工会議所、袋井高校、袋井商業、静岡理科大学等に配布・販売予定
- ・仕事が楽しければ人生も楽しくなることをメッセージとして伝える

（参考資料：提言1 関連資料）

- (1) 中小企業の魅力とは（11P）
- (2) 物語で伝える企業の魅力（12P）
- (3) 伝え方の工夫（13P）
- (4) 本を作る意味と伝えたい理念（14P）
- (5) 仕事を通じて「もっと楽しい人生になる」ことを描く（15P）
- (6) 自己採点表で客観的に表す（16P）
- (7) 動画配信サービスとの連携（16P）

（２）県・市の施策の積極的な活用

高校生対象の地元企業見学バスツアー（市）、高校生と企業を結ぶ合同企業説明会（市）、経営革新計画制度（県）など、既存の各種制度について、会員企業間で勉強会を開催するなど、制度を知り有効に活用することが大切です。

■提言 2 デジタル(I C T)の積極的な活用でわかりやすく伝える

(1) V R動画で職業体験

企業では人手不足や若者の市外への流出、経験ある職人の退職など様々な雇用問題を抱えています。新卒の希望者を募る際は、大企業には劣る部分も多く、中小企業の良さをどの様に伝えるかが重要です。例えば就職フェアなどの開催も機会の一つですが、中小企業や業種などによっては出展が難しい場合もあります。そこで行政の協力を得ながら、V R動画などの活用で、中小企業であっても、若者や転職を希望する求職者が職場の雰囲気を経験できる環境づくりが必要です。

また、V R動画に限らず今後は I o T (Internet of Things :モノのインターネット) が普及し、各種デバイスなどから、様々なデータが自動的に収集・分析され、ユーザーに対して有益な情報がフィードバックされるようになります。また今後は各家庭の家電などにおいても I o T対応が可能な未来が予想されます。会員企業はこうした技術革新をより積極的に取り入れるため、展示会などへの視察を行い情報収集するとともに、利活用に向けての調査・研究が必要です。

< V R動画を活用するメリット >

- ・求職者が気軽に、現実的な職業体験が出来ること
- ・企業の規模に捉われず近い条件で比較してもらえることが出来ること
- ・V Rが一般には普及しておらず、絶対数が少なく関心を持ってもらえること

(参考資料：提言 2 関連資料)

(1) V Rならではの職業体験 (17P)

(2) 実現に向けての構想 (18P)



出典：デジハリ ONLINE

(2) 各社ホームページの充実

若者や転職を希望する求職者が、就職先の情報を「インターネット」から収集する際に、今日においてホームページへの自社の魅力を伝える企業情報を掲載することは必要不可欠です。会員企業は、人材確保や販路拡大のため、各社のホームページ作成や充実に一層取り組む必要があります。

4 参考資料

■提言 1 関連資料

(1) 中小企業の魅力とは

中小企業が多い袋井市において、その魅力を十分に伝えることが重要です。

中小企業にあって大企業にはないものとして、社長の顔が良くみえ、小回りが利き、即決がし易いことや家族経営を挙げることが多いと思います。また個人の能力を生かしやすい点やお客様との接点が多く、直接お客様からの声をきくことができることも魅力です。そして、ある分野に特化できることも可能で、他の企業が簡単にはマネができないようなニッチ産業を確立することも魅力の一つです。

中小企業で働く上でのメリット

	中小企業	大企業
仕事の裁量	任される仕事の範囲が 広く、やりがいがある	業務が細分化しすぎて モチベーションを 保ちににくいことも
仕事の 流れ・目標	事業規模が小さい分 仕事の流れが見えやすい	目先の自分の仕事が 何のためにやっている のかわかりにくいことも
意思決定 までの スピード	承認の人数が少ない分 スピーディーに済む	フローの工程数や 承認の人数が多く 時間がかかりがち
転勤や異動	業種や職種によるものの 少なめ	総合職では全国転勤が あるケースも多い
社内の 雰囲気	アットホームで社長との 距離も近い	人数が多い分、 面識のない人も多く ビジネスライクな雰囲気

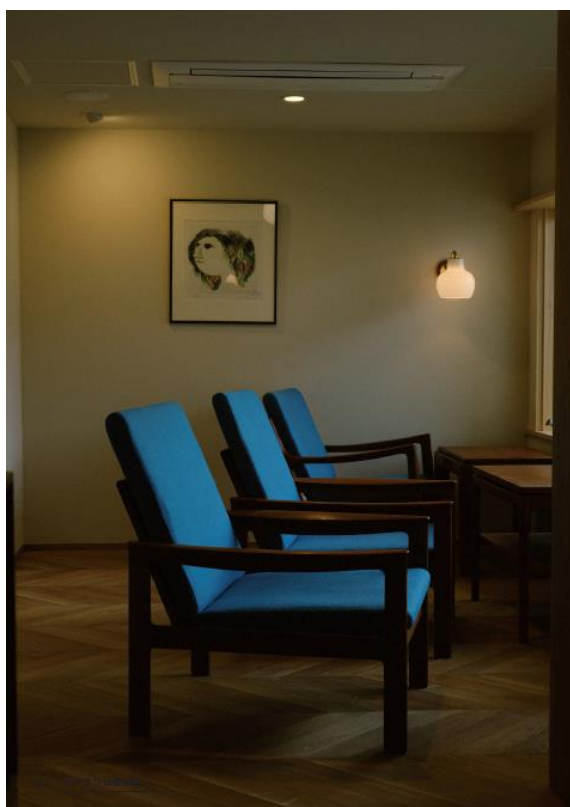
出典：転職 Hacks 知らないで損する転職術

(2) 物語で伝える企業の魅力

現在、人手不足が深刻化し、中小企業の人材確保は年々大きな課題になっています。大手企業と比べ、広告などの露出が少なく採用に予算をかけられない市内の多くの企業にとっては、一層深刻な問題になっています。

一方で、素晴らしい技術や理念を持ち、生き生きとスタッフが働いている企業も市内に数多くあります。一本筋が通った魅力が長い年月をかけて醸成された思いは、お客様やこれから就職を考えている若者の目を引くはずです。そこまでに至る経緯を物語風に仕立て上げ分かり易い写真で伝えることが必要です。実際にどんな仕事をどんな気持ちや理念で行っているのかイメージが付き、大きな希望が湧いてくるはずです。

求職者から選ばれる企業・・・そんな企業を目指しましょう。



自分の「天職」を見つけよう。

小学校、中学校を卒業すると、いつしか「はたらくこと」が身近に迫ってくる。
中学を卒業したあとに、高校、大学に進学するかもしれないが、
少しずつ「はたらく」が近づいていることは、たしかだ。

やがて、就職活動に突入したとき、
冷静でいられる人は、ほとんどいないだろう。

「自分の強みは？」「本当にやりたいことは？」
「どんなことをしたいんだっけ？」・・・そんな自分らしさは、
いつしか、就職活動の波にさらわれ、自分の原点を見失う。

世の中には、仕事の種類は山ほどある。
同じ職種でも、会社がちがえば、やり方もちがうし、社風も異なる。
就職サイトに載っているのは、山ほどある仕事のごく一部だけだ。

人生の大半を費やす仕事が好きになれば、人生もきっと楽しくなるはずだ。
たとえ、他の人がやりたくない仕事であっても、
自分に合っていれば、あなたにとっては正解といえる。

一度きりしかない人生を、もっと豊かに。
自分の「天職」を見つけよう。

はままつ仕事図鑑 7

出典：はままつ仕事図鑑 (株)55634

(3) 伝え方の工夫

行政機関等を中心に、UターンやIターンなどの取り組みなど行っておりますが、学校を卒業後、大都市周辺に就職する若者が多いのが現状です。また、各地域で1日限りの「就職フェア」などのイベントは頻繁に開催されていますが、若者が地元企業の魅力を直に感じる機会には時間的な限りがあります。大都市周辺に移住する前に、若者に地元で働くことを知る機会を与え、企業の本当の魅力を伝える必要があります。

就職活動の制約を少しでも緩和できる「本」での発信が新たな解決策になると考えています。地元企業で働く人の人間味や人となり分かる内容を発信し、気軽にSNSやサイトから閲覧できるようにすることで若者の目に触れやすくする工夫をしています。またSNSから企業と学生がお互いに気軽にアクセスできる環境作りやSNS上からでもコミュニケーションを図れる仕組みづくりにも着手します。興味があれば自らアクセスすることが可能になる新たな手法も模索します。

そんな京丸園さんで現在働くスタッフは、社員・パートさんなど含めて約100名。その中心でコミュニケーションをとられているのが、厚志さんの奥さまの緑さんです。

「ほんとに、色々な方が働いてくれるんですよ。一番若い子は16歳から、82歳の元気なおじいちゃんまで。男女比は女性が6割位かな。」

笑顔と元気いっぱいいる緑さんは、総務・経理・人事などいろいろなことを担当されています。



「社長は次々新しいことを思いついて忘れていっちゃうので（笑）、とりあえずなんでも緑さんで感じて、ほんと色々な方とすごく楽しく仕事させてもらっています。」

そんな緑さんに案内をしてもらい、まずお話を聞かせていただいたのは、鈴木さん。妊娠中、京丸園さんで働き出し、1月の出産を経て、先月から復帰されたそうです。

「私、家でじっとしてられない性格で（笑）。妊娠中に働かせてもらいましたが、出産後もこうして働けていてすごく楽しいです。」

鈴木さんが担当しているのは、出荷調整という、収穫してきたネギに残っている種や、枯れたネギをピンセットで取り除く作業です。

「これ、いろいろな種類のピンセットがあるんですよ。先の細さとか形状とか、色々試してみてもやりやすい形をみんな見つけているんです。」

働き出した頃は先輩たちに箱かくコツを教えてもらい、やっていくうちにだんだんとスピードが上がってきたそう。一人ひとりの作業効率にも意識されていることがよくわかります。

「私にとって、外に出て働く時間というのはほんとに貴重なんです。子育てだけどうしても気が減ってしまうんですが、3時間だけでもこうして働くと、帰ってからは娘を今日は一日中だっこしてあげる！なんて気持ちになったりして。」



鈴木さんは、ご両親に子どもを預けられる時間を作って、働きに来ているそう。子育てをしながらの短時間でも、早く受け入れてくれることがありがたいと言います。




130 はままつ仕事図鑑
はままつ仕事図鑑 131

出典：はままつ仕事図鑑 (株)55634

(4) 本を作る意味と伝えたい理念

形式的なデータからでは分らない、その会社の理念や起業にいたる経緯や特徴、携わる方の働く様子など、経営者やスタッフにお話を伺って第三者からの視点で伝え、仕事内容や働きがい、社会とのつながりなどをしっかりと取材して、“働く“ことを伝えます。また、地域で働く様々な方の“働き方”を掘り下げて伝えることで、次代を担う若い世代が働くことの意義を再認識してこの袋井市を元気にすることを目指し、更には会社の社会的意義、地域での存在意義にも触れる内容にしていきます。地元企業の魅力発見やお互いを知る機会の必要性を訴えていきます。



そんな高林さんが浜松に戻り、丸八不動産さんに入ったのは平成29年4月。森ビルに8年間勤めた後に、地元に戻ってきました。もともと、いつかは地元に戻りたいという気持ちがあったのですか？

「漠然とですが、いずれ浜松に帰るという思いはありました。余生ではなく、働く場として地元のことは考えていました。でも、東京での仕事もとてもおもしろくて、最初は3年で戻ろうと思っていたのが、5年、8年と延びていって。」

丸八不動産さんで働くきっかけとなったひとつは、カギヤビルを知ったことだそうです。リノベーションしたおもしろい建物として、地域活性化の拠点となっていたカギヤビルの話を聞くようになったそう。そんな場所が地元にあるんだな～と思っていて、丸八不動産さんが運営していることを知ったそう。

「こういう視点で新しいことを仕掛ける企業は、それほど多くないと思うんです。僕はこの仕事が好きなので、今まで経験してきた仕事を浜松に戻っても活かしたいという気持ちはありました。」

淡々と話す高林さんの言葉からは、まちづくりへの熱量が伝わってきます。



丸八不動産さんでは、街なかで始めているユニークな取り組みがたくさんあります。

そのひとつ、「肴町リトル」は高林さんが担当している事業のひとつ。肴町通りを北に進み、ゆりの木通りにほど近い路地に入ったところにあります。

開放感のある大きな屋根の下、美味しい料理やお酒を楽しめるスポット

として、平成30年2月にオープンしました。路地裏にある、まるで秘密基地のような空間です。

「この肴町リトルは、シェア屋台というコンセプトなんです。小さなお店が集まる屋台村。今入ってくれているのは、ラーメン屋さん、点心とワインのお店、紅茶の専門店、インドカレー屋の4つで、出店者同士で取り決めた営業時間にそれぞれ営業されています。」

出典：はままつ仕事図鑑 (株)55634

(5) 仕事を通じて「もっと楽しい人生になる」ことを描く

人生の大半を費やす仕事を楽しければ、人生もきっと楽しくなるはずです。

就職サイトや一般的な媒体に載っている情報は断片的なものに過ぎず、袋井にはまだまだ多くの企業があり、様々な仕事がありますし、その中で自分自身の仕事・働きがいを見出して、自分の人生を過ごしている方が多いです。皆さんとても生き生きとしている方が大半です。雇用主と雇用者とのミスマッチングを減らし、不安を和らげ、自ら楽しい人生を考えるきっかけを創出します。



『楽しい』が広がる、 hiro furnitureの家具と空間づくり

株式会社 hiro furniture | 浜松市中区相生町



10 はままつ仕事図鑑



地元にあるお店やブランドの人気が広がって、全国的に知られるような存在になると、同じ地域に住む私たちも、なんだか少し誇らしく思える瞬間があります。

自分たちが昔から知っていたり、素敵だな、と感じていたものであれば、それはなおさら。そして、そんな素敵なお店やブランドの多くが独自の世界観を持っています。その世界観に共感してファンになる気持ちは、自然と人から人へと伝わっていきます。

今回ご紹介するのは、東京をはじめ全国にファンが広がっている、浜松の家具ブランド「hiro furniture」さん。現在は、オーダー家具のほか、住宅建築、店舗デザイン、ガーデン設計など、さまざまな事業を展開されています。

訪れたのは、中区相生町のショールーム。お店の前に立つだけで、hiro furnitureさんがつくり出す独特な空気感をいっばいに感じられます。浜松を中心に、人気となっているカフェや美容院なども、これまでに数多く手がけてきました。

ショールームに入ると、木や鉄、モルタルなどを使ったシンプルで洗練された空間に、たくさんの家具が並んでいます。

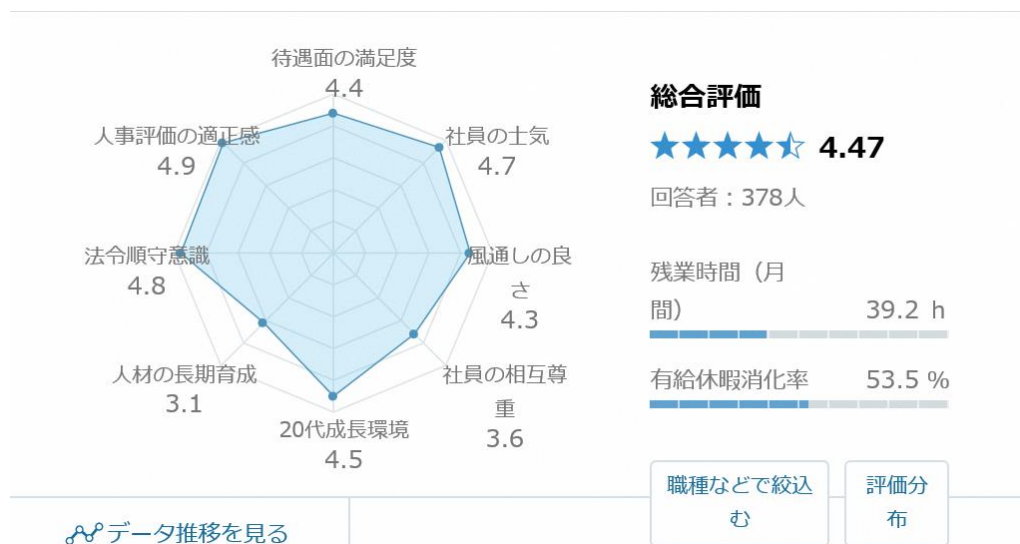


11 はままつ仕事図鑑

出典：はままつ仕事図鑑 (株)55634

(6) 自己採点表で客観的に表す

資料にチャートグラフなどを取り入れることで、会社の社長、オーナーが自分の会社の強みを端的に表す指標として活用できます。客観的に自社を俯瞰し、自己評価する。今一度自分の会社を考える機会と共に若者に選ばれる企業にならないければいけません。一つの分かりやすい指標としての活用も可能です。



出典：OPENWORK

(7) 動画配信サービスとの連携

各企業の1日の仕事の流れを動画（VR）撮影し、本の創刊と共に配信することを検討します。動画は、文章と共により分かりやすく求職者に伝えていく手段としてとても有効的です。出社から帰宅までの労働時間は勿論のこと、一番大切な仕事の内容を細かく紹介します。そこで具体的なイメージが膨らみ、自分に相応しい仕事内容なのか、自分に向いている仕事なのかの判断ができると思います。また帰宅後のスケジュールも記載し、自分の趣味や他の活動の時間の使い方から仕事以外の自分の生活もイメージがつかれます。

■提言 2 関連資料

(1) VRならではの職業体験

VRの1番の優位点は求職者が気軽に職業体験が出来ることです。

VR動画の視聴ブースを市の施設などに設置し、都合の良い時間に誰でも手軽に地元企業の職業体験が出来る環境を作れば、地元企業の魅力を伝える事が出来ます。企業側は自社の優位点のPRや人手不足などの雇用問題を解決し、求職者は職業体験をすることにより地元企業を知ることができます。企業側と求職者の双方に優位点があり、新しい形の職業体験を内外にPRできます。

例えば高所作業などの危険を伴う作業や、会社から現場や取引先に出向いて行う仕事は入社前に体験出来ません。そうした実務をVRで経験してから入社することで離職率も下がります。就職活動をする若者や、他業種へ転職を考えている人の入社前の判断材料になります。

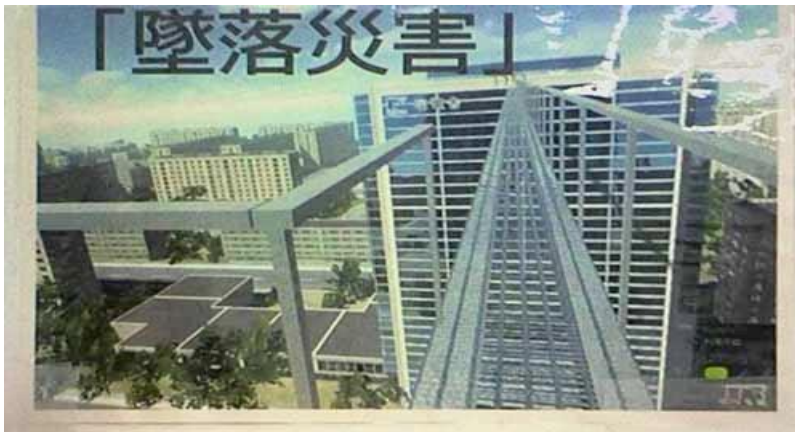
現実の作業風景

出典：photoAC



仮想現実

出典：明電舎



（２）実現に向けての構想

袋井商工会議所の会員企業が入社１ヶ月目の社員の目線の動画を作成します。作成した動画を袋井市の様々な施設で自由に視聴出来るようにします。

<視聴ブース設置候補箇所>

袋井市役所、新産業会館（キラット）、さわやかアリーナ袋井、月見の里、風見の丘メロープラザ、ハローワーク、袋井高校、袋井商業など。

※VR動画は視聴可能年齢があるため、小中学校は除く。騒がしくなる可能性もあるため図書館は△。

VR動画の視聴ブースの設置には予算もかかるため、行政の協力のもとまずは実験的に１ヶ所設置することが現実的だと考えます。動画を掲載している事業者の情報を掲載し、ホームページからも閲覧出来るようにします。

<予算>

動画の撮影や編集の際は、専門業者への委託が考えられます。動画の掲載は登録制として、掲載する各社が、登録料を負担する必要があります。

<登録条件>

- ・袋井商工会議所の会員企業であること（特例有り・・・市役所、病院、学校など）
- ・袋井市内に事業所、店舗等をかまえていること
- ・市税等の滞納が無いこと
- ・青少年が視聴する可能性のある動画のため、法的モラルに違反しないこと
- ・動画の内容は、あくまで日常の仕事風景であり過度な演出は避けること

市民にとってはICT技術がより身近になり、民間企業にとっては袋井市と共に新しいことにチャレンジすることで連携がより強固になります。動画を視聴した市民が地元企業、袋井市を更に好きになっていただければと思いますので、今後は実現に向けて様々な角度から意見を出し合い、議論し、検証して参ります。



出典：自遊空間

あとがき

私たちが住む袋井市は、高齢化率からわかるように全国的にみても若い世代が多く活気にあふれております。今後益々、若者がこのまちに定住し、将来を見据え、ビジョンを描けるような循環型の社会の構築を目指し、今迄にない新しい分野やアイデアを吹き込んでいきたいと思えます。青年経済団体として常に自社の発展のみならず、地域の経済的発展や豊かで住みよい郷土づくりに向け活動することが重要であり、政策提言の継続こそが青年経済人に課された事柄です。そしてなによりも袋井が好きな気持ちが大切であり、私達Y E Gメンバーが地域の現状を学び、その課題に一人一人の意見を集約、創造したこの政策提言書が少しでも地域に貢献し新たな風を吹き抜けることを願い、あとがきのご挨拶とさせていただきます。

令和2年1月15日
袋井商工会議所青年部
政策提言委員会

令和元年度 政策提言事業 主な活動実績

令和元年 5月23日(木)	第1回 風会議 【実施目的・内容】 袋井市の現状、課題を語る。
6月19日(水)	6月定例会「政策提言勉強会」～地域の現状と企業の未来～ 【実施目的・内容】 政策提言書の概略説明。 商工会議所と政策提言の必要性を学び、成長する為の意識づくりを図る。 パネリストから現状や課題を学び、地域企業の発展の可能性を語る。 【パネリスト】 袋井市 副市長 鈴木 茂 氏 袋井商工会議所 専務理事 鈴木満明 氏 掛川商工会議所青年部 監事 小林武司 氏
9月19日(木)	9月定例会「政策提言討論会」 ～語り合おう！もっと幸せな袋井市へ～ 【実施目的・内容】 政策提言勉強会を振り返り、地域の現状と私達の企業が抱える課題から未来を考え模索し、意見を交わし合うことで政策提言活動を現実的かつ具体的な方向性に絞り込む。 【講師】 鳥居食品株式会社 トリイソース3代目 代表取締役社長 鳥居大資 氏
10月29日(火)	第2回 風会議 【実施目的・内容】 前回の復習、政策提言書の草案
令和2年 1月15日(水)	袋井商工会議所青年部 臨時会員総会 【実施目的・内容】 政策提言書の発表
1月29日(水)	市長定例記者会見 袋井市役所
2月	第3回 風会議

6月定例会議事録

「政策提言勉強会」～地域の現状と企業の未来～

令和元年6月19日（水）

袋井市堀越 レスペランス

【実施目的・内容】

商工会議所と政策提言の関係性や必要性を学び、青年経済人として袋井と共に成長する為の意識づくりを図る。また、袋井の現状や課題を行政関係者、有識者などから学び、地域企業の発展の可能性を探り、意見交換を行った。

■課題

鈴木副市長

袋井市の課題は、他の市町村と同様で以前と比べて人口分布が変化している。

I C Tへの対応や教育の充実がより求められている。

鈴木専務理事

会員企業が減少し廃業も多い。

事業承継や軽減税率への対応が課題。

小林氏 掛川市、経営者の視点

既存のビジネスモデルが通用しない。製造業、自動車産業の変化。

生産性を上げる必要性あり。

人への投資が必要。「報徳思想」で充実した人生、人のためを考える。

西山会長

人手不足、転職が多い、企業努力、若手が離職し市外へ。

転職者を獲得したいが大企業へ流れてしまう。

■若手が定住するには・・・

鈴木副市長

袋井市周辺で働いている。周辺市町村とゴミなどの連携は良いが産業振興はハードルが高い。生き生きとした住民生活の提供が必要。

鈴木専務理事

働く場所の提供、経営理念を明確にすることが大事、少し意欲が少ない気がする。

小林氏

掛川市の魅力は、そこそこで便利で適度に田舎。治安の良さ、犯罪率が低い。

■優れている点・・・

鈴木副市長

歌舞伎、オペラ、野球場等は非日常なことで、非日常求める場合は大都市へ。

生活のクオリティを高くして休日はスポーツを楽しむ。田舎ならではの発想が大切。

小林氏 袋井と言えば・・・

先人たちをリスペクトする必要。商工会議所の親会の意向が大切。

■テーマ2 今後に向けて

鈴木副市長

教育・・・自立力が必要で何でも自分で解決する力を養う必要性。

トライしてみることが大切。人間力を高める必要性。

鈴木専務理事

自信と誇りを持ってもらうこと。

ふるさと教育をして袋井に役立つ人をつくってほしい。人間力や郷土愛を育む必要性。

小林氏

勉強会を行い親会の賛同も得る必要性あり。

失敗談、アドバイス

スピード感を求めすぎて少人数になり理解している人が偏る。

Y E Gの組織自体のレベルアップを望まない方もいる。

実行して定着するまで皆でやる、地域に貢献している達成感を感じる。

他人事ではなく、自分事でまちづくりを行うこと。

メリットは、Y E Gの株が上がる。Y E Gを覚えていただき地位が上がる。

鈴木専務理事

地域のリーダーになること。自信を持つこと。自己満足だけではなく周りからの声を集めることが大切。会員へのサービスだけではなく「まちづくりへの参画」の必要性。

9 月定例会議事録

～語り合おう！もっと幸せな袋井市へ～

令和元年 9 月 19 日（木）

袋井市総合センター 4 階

【実施目的・内容】

9 月定例会は、6 月の政策提言勉強会で学んだことを今一度振り返り、講師から政策提言の実績や具体的な政策方法を学んだ。企業が抱える夢や課題をテーマとしてグループディスカッションを行い、現実的かつ具体的な解決、改善案を模索した。

🗨️ A グループの要点 ファシリテーター：高木

中学生は学力でなんとなく高校を選んでしまう傾向にあるため、中学生に地元企業を PR し、将来を見据えて高校を選んでもらうようにする。

性格から適材適所にする。

主婦層をターゲットにしたリクルートをしたい。

ニッチな業界であるため、認知してもらいたい。

税収を増やす。

自社ビルを建てる。

社員から経営者に改善提案をしてもらえるような会社になる。

風会議を定期開催する。

行政から仕事を選ぶポイントを言ってもらおう。

🗨️ B グループの要点 ファシリテーター：川村

若者が県外に出たがる。

ベテランの退職。

職人の替えがきかない・・・求人で外国人も検討中。

優秀な人材とは。

優秀な人材を集めるより育てる。

新卒より U ターンをしっかりと受け入れる事が必要。

中途・・・転職フェア。

若者について。

袋井商業の就職と進学割合はどのくらいだろうか。

年間の休日が重要。

基本給より成果給。

店舗会社に地元高校生の絵をかざりたい。

以上の出た意見から人手不足が課題。

社内イベントは忘年会程度・・・社内の派閥などもあり実現が難しい。

副業を認めていく。

300人以上の大手企業が女性の雇用が義務づけられていることから。

小規模事業者が雇い入れた時に特典が欲しい（高齢者、障害者は助成金がある）。

子供たちの職業体験・・・実体験が出来る場所をYEGメンバーで提供したい。

（新卒、Uターンも参加可能なイベント）・・・長期的な目で成果がでる。

短期で成果を出すには・・・袋井限定マイナビ合同フェア開催。

☞ Cグループの要点 ファシリテーター：金原

学生に対して地元企業の魅力の発信を強化すること。

経営者としての資質向上と勉強を続けること。

学生との接点を増やすこと。

経営上、袋井出身だけの人材が集まるのは不自然。

色々な地域から集まり、様々な能力や技術が集まった方が企業は強くなる。

アンケートの結果では袋井市内中学生は70%将来、袋井に住まない。

卒業後、袋井市外に出て30代で袋井市内にて起業をしてほしい。

学生との接点を増やす。

人材育成をする前に人が会社に入ってくれない。

学生スキルの差が大きい 公立の職業体験学校の設立。

標準点以下の業者には補助金を出す。

優秀な人材は外に流れてしまう。

基礎学力の底上げ。

仕事の標準化・・・繁忙期と閑散期の差が著しい。

異業種への挑戦。

☞ Dグループの要点 ファシリテーター：白井

行政とタイアップし就職フェア。

行政と経営者が顔を合わせる機会（風会議）。

自分の業界について中学校で学んでもらう。

行政と共に考える場が必要。

高校の次のステップが乏しい。

一度リタイアしても復職できる職場作り。

袋井に魅力が乏しい。

元請け下請けともに win-win の関係。

ハンドメイドの良さ。

夜の繁華街。

政策提言チームメンバー

担当委員長 高木 大輔

安間 孝介、石川 浩、小林 巖太、佐藤 亘

担当副委員長 川村 佳功

村主 佳彦、鈴木 謙之、鈴木 良信、鈴木 翔也

担当副委員長 金原 康夫

山下 太一、山本 卓巳、米山 晃平、大西 直希

政策提言委員会メンバー

	役 職	名 前	事 業 所 名
1	副 会 長	白井也寸人	シライ塗装
2	委 員 長	高木 大輔	(株)プルデンシャル生命保険
3	副委員長	川村 佳功	(株)青空クリーン
4	副委員長	金原 康夫	(株)花豊
5	委 員	村主 佳彦	旬彩酒房 杏
6	委 員	山本 卓巳	炭火焼ごぞう
7	委 員	鈴木 謙之	清友梱包輸送(有)
8	委 員	小林 厳太	(株)ケイシーシー経営研究所
9	委 員	鈴木 良信	(株)五十嵐組
1 0	委 員	安間 孝介	安間製茶
1 1	委 員	山下 太一	(有)山下ベース工業
1 2	委 員	石川 浩	(株)未来計画
1 3	委 員	佐藤 亘	ネクスト
1 4	委 員	米山 晃平	(株)ピュアリフォーム
1 5	委 員	鈴木 翔也	(株)ティ・エム・ワイ
1 6	委 員	大西 直希	大西工業

令和2年1月発行

袋井商工会議所青年部 政策提言委員会

編集担当者 金原 康夫

事務局担当 金原 大樹



Fukuroi Young Entrepreneurs Group

袋井商工会議所青年部